

報告2 アフガニスタンの識字教育の現状と課題

小荒井理恵



ユネスコ・アジア文化センター（A C C U）の小荒井と申します。今日は「アフガニスタンの識字教育の現状と課題」ということで、J I C Aが実施している「アフガニスタン国識字教育強化プロジェクトフェーズ2」の事例を中心にお話をいたします。私はこのプロジェクトにメンバーの一員として携わっておりますが、日本人とアフガン人各8人のスタッフが教育省識字局の方々と一緒にプロジェクトを実施しています。

（1）アフガニスタンの識字状況

アフガニスタンの成人識字率は（いろいろな数字がありますが）、2007年、2008年に行われた調査によりますと、男性39%、女性12%、全体では26%となっていました、世界の中でも最も識字率の低い国のひとつです。非識字者数は、およそ一千万人と推定されています

アフガニスタンの識字状況

- 成人識字率：
26%（男性39%、女性12%）（2007/8NRVA調査）
- 非識字者数：およそ1,100万人と推定
- 公用語：パシュトゥー語、ダリ語
- 言語数はおよそ49
- 教育政策：2014年までに360万人に識字教育を提供（少なくとも6割は女性）、成人識字率の48%への向上、学習達成度の向上など

（図1）。

教育政策として、教育省は、2014年までに360万人に識字教育を提供すること、そのうちの少なくとも6割を女性に当てることを目標としています。また、成人識字率を48%に向上させることや、識字の学習達成度の向上などを目指して活動をしています。

学習者が識字教室で学びたいという理由

理由は、「携帯電話の番号をダイヤルしたり、名前を登録できるようにになりたい」、「ペルシャ語は学んだが南部で使われているパシュトゥー語の文字がわからないので読み書きを勉強したい」、「仕立物の注文や売り上げを記録したり、寸法を測って記録できるようにしたい」、「家で本やコーランを読めるようになりたい」等々、本当にさまざまです。

識字教育は、教育省の識字局だ

図
2

識字教室・学習者・教師数 (2010年)

	数	うち識字局の割合
識字教室	計27,270 教室 女性15,283 男性11,987	18.27%
学習者	計611,461人 女性356,134人 男性255,327人	18.63%
識字教師	計17,788人 女性10,382人 男性7,507人	10.74%

Source: Literacy Department, Ministry of Education (2011)
Statistics Report 2010 for Literacy Courses

識字教室の様子
(バルフ州)



識字教室で学ぶ子どもたち
(カブール市)



けでなく、NGOとか国連機関、女性課題省や内務省等々いろいろな省庁が実施しています。2010年の総数は、識字教室が約2万7千教室、学習者は約60万人、識字教師が約1万7千人です(図2)。このデータも、アフガニスタン全州から集めることが難しい状況なので、各郡や他の機関から集めた現状での総数によっているとのことなんです。後ほど紹介しますプロジェクトがこういったデータの収集や報告書の作成を支援しています。

識字教室の様子ですが、男性の識字教室の場合には、学校とか病院、青空教室など場所はどこでも大丈夫なのですが(図3)、女性の識字教室は、先ほどの子ども図書館と同様に、安全面に配慮して、多くは先生の家やコミュニティにある民家で行われています。

子どもを対象にした特別教室も識字局で行っています(図4)。大人と同じ識字教育ではなく、学校と同じカリキュラムを使って教え、小学校4年生までの学習を終了した後、できれば5年生に編入するというプログラムなのですが、実際には資金不足などでなかなか普及していません

アフガニスタンの識字教本



識字教育の主な課題

- ・ 量の拡大とともに質の向上の必要性
- ・ 識字局(中央・州・郡)の能力強化
 - ー多様なアクターによる識字教育プログラムのモニタリング、データ収集、分析、情報の活用、調整
 - ー学習者が識字能力を習得できているのか、評価の必要性
 - ー郡レベルのモニターによる識字教師への助言・技術支援

るので、多くの場合は子どもだけの教室でも成人と同じ識字教本を使って教えています。ですから、様々な理由で学校に行けない子ども、それも特に女子が、家の近くの識字教室で成人に混ざって勉強している姿が多く見られます。

図5がアフガニスタンの識字教本です。日本政府の資金援助でユネスコと教育省識字局が作ったものです。文字計算のページには計算練習のスペースもあります。イスラムの教えや、アフガニスタンは多民族国家であること、保健の分野で予防接種の必要性や衛生のこと、環境のこと等々、いろいろなトピックスを織り交ぜて教える内容になっています。

(2) 識字教育の主な課題と「識字教育強化プロジェクトフェーズ2」

識字教育の課題はたくさんあります(図6)。一千万万人の非識字者に対してどんな識字教育を行っていく量の拡大も重要ですが、同時に、学習者が本当に識字の能力を身につけて実際に使っていけるようにといった質の向上も必要です。そのためには、教育省識字局の能力強化が

アフガニスタン国識字教育強化 プロジェクトフェーズ2 (LEAF2)

- ・ 実施期間： 2010年4月から2014年3月
- ・ 対象地域： 全州
- ・ 事業目的： 識字教育の質向上のため、識字局のモニタリング・技術支援に係る能力強化。
- ・ 事業内容：
 1. モニタリング・技術支援枠組みの開発
 2. 学習達成度評価ツールの開発
 3. 報告・情報共有の方策開発
 4. 技術支援の方策の開発

*パイロット地域…成果を確かめるために活動や投入を試験的に実施する地域。

重要な課題です。識字局は識字教室を直轄で実施するだけでなく、様々な組織や団体が行っている識字教育に対して、それぞれの識字教育プログラムの質を担保する役割がありますので、現状は、プログラムをモニタリングしたり、データを収集して分析した情報を活用して種々の組織・団体と調整をはかるといった任務に対応しています。

個々の学習者の識字能力習得に対する評価については、現在対応できていませんので、きちんとした評価を行う必要があります。郡のレベルにはモニターと呼ばれる視学官のような方がいますので、その方々が識字教室をきちんとモニタリングして識字の先生に対して助言やサポートを行っていくことも必要です。

こうした課題に対応するために、JICAは2010年4月から4年間のプロジェクトを開始しています。それが「アフガニスタン国識字強化プロジェクトフェーズ2」です(図7)。対象地域は首都のカブール市とアフガニスタンの全国34州ですが、パイロット地域として北部のバルフ州と東部のナンガハール州で試行活動をしています。

主たる事業内容は4点あり、1点目は全体的なモニタリング・技術支援枠組みの開発。2点目は学習達成度評価ツールの開発。3点目は学習者数のようなデータの報告とか情報共有の方策を開発すること。4点目

これまでの成果

1. モニタリング・マニュアル案の開発
2. 学習達成度評価枠組みとツール案の一部を開発
3. 状況報告書2010年の開発
4. 補助教材の開発、教師研修、識字キャンペーン用ポスターの開発等



写真：補助教材を作成したバルフ州女性職員（2011年）

2011年12月、34州識字局、他機関との共有ワークショップ開催

が、モニターたちから識字の先生に対して行う技術支援の方策を開発することです。この事業のこれまでの成果は次のようなものです（図8）。

1点目については、識字局のスタッフたちが「モニタリング・マニュアル」を開発しました。モニタリングとは何かといった定義から始めて、実際に識字教室に行って、モニターはどういう点をチェックすべきかといったフォームを作り、どのようにモニタリングしたらよいかというマニュアルを作成しました。パシフトゥー語版とダリ語版もあります。

2点目の学習達成度評価ツールについては、一部分ですがその案を開発しました。まず識字コースが始まる前に、受講者たちがどの程度の識字能力を持っているかをチェックします。学校に行ったことがある人や、そうでなくても簡単な読み書きはできる人などもあるかもしれないといった状況を把握してその後の学習に生かすという意味で、識字コースの開始前に調査をして、開始後3カ月目、6カ月目、9カ月目と評価を行います。9カ月目の最後の評価で一定の点数とか正答率を取得できれば、識字局として修了書を与えるという構想で現在取り組んでいます。

3点目については、統計の報告書の開発をしました。

4点目では、具体的に先生たちがクラスで使えるようなものを作るということで、たとえば図8の写真にあるような補助教材を識字局スタッフ

今後の課題と機会

- ・ 治安状況が改善しない中、日本人専門家の行動制限→識字局とのさらなる連携
- ・ 識字局以外の省庁や、他機関・NGOとの調整による開発したツールの活用
- ・ アフガニスタンの状況に応じた現実的な実施方法の考案
- ・ 女性の参加の促進

フが作り、それに基づいて教室で教えるためのレッスンプランの作り方などの研修を行っています。また、識字教育を地域で認識してもらうための啓発用ポスター等も作りました。

昨年12月に34州とカブール市の方々を招いて、以上の成果を共有した上、今後、これをどのように使っていくかについて話し合いました。

(3) 今後の課題と機会について (図9)

今後の課題と機会についてですが、治安状況が改善しない中で、私たち日本人の行動範囲は、残念ながら本来に限られてしまっており、識字局の方々と連携して、プロジェクトを実施していけるようにという取り組みを続けておりますが、こうした状況下では、従来にも増して識字局やその他の省庁とか、NGOなどとの協力が重要になっています。これまでプロジェクトで開発した各種のツールを、識字教育に携わる人たちが共有して、全体で使っていくために調整が必要なのです。

特に、学習達成度評価については、学習者一人一人に実施することが目標ですが、予算や資源が不足している中で、約60万人の学習者に対してテスト用紙などを配布するのは、現実的に難しいという声が上がっています。今後は、そうした状況に応じた現実的な実施方法の考案をして

まいりますが、ご来場のアフガン人の先生方、何かよいアイデアがありましたら後ほど教えてください。

女性の参加の促進ということも重要な課題です。特に、試行地域ナンガハール州でのワークショップでは、男性の参加者が多く女性の参加者が少ないのです。また、プロジェクトスタッフ自体も、適切な女性スタッフがなかなか見つからないという状況があります。現在、女性の識字教室が多いので、識字教室のモニタリングにも対応できるような女性スタッフも募集中です。

以上です。ありがとうございました。

丸山…ありがとうございます。

小荒井さんには現地での具体的なプロジェクトの現状と課題についてのお話をいただきました。

ところで、日本語で「識字」と申しますと、どうしても、「読み・書き・算盤」のイメージで捉えられがちなのですが、

ご清聴ありがとうございました



写真 アフガニスタン識字局職員研修のため訪問したバングラデシュにて
(2011年)

図10

*リテラシー…(literacy) 対象を理解して対応できる
言語能力。なんらかの分野で用いられている記述体系
を理解し、整理し、活用する能力。

ご承知のように、ここではもっと幅広く、英語の「リテラシー」*の概念が相応しいと思います。特に今回は「ノンフォーマル教育」という括りがポイントとなっておりますので。

次に、佐久間さんから、もう少し大局的に、実施機関である国際協力機構 JICA の活動を伺います。

